



県・有形文化財 美術工芸品（彫刻）

## 金銅千手観世音菩薩立像

魚津市小川寺（千光寺）

鎌倉時代の代表的な金銅仏で、当時の特徴である寄せ鑄き技法で製作されている。身の丈37cm、台座24cmと小形であるが、唇に朱の残る美しい仏像で、県内のみならず全国的にも高い評価を受けている。

光背は、度重なる戦火で破損しているが、精巧な唐草模様の透し彫りで、金と銀で鍍金されている。頂上仏や脇手の持ち物に欠失したものもあるが、尊容をそこなう程ではない。

寺伝によれば、本像は大同元（806）年に経田浦から大威徳明王と2体一緒に漁網にかかって、海中から引き上げられたものとされる。秘仏として、長く33年ごとの開帳のみであったが、近年は17年目に中開帳が行われ、信者の尊崇を集めている。

この仏像は、小川山千光寺の心蓮坊・光学坊・蓮蔵坊の三坊が交替で管理している。